

機能	項目	検査で考えられる異常
身体計測	BMI	肥満は生活習慣病を引き起こし、特に循環器系・肝機能系にも良くないとされています。BMI(ボディ・マス・インデックス)指数で評価します。これは体重(Kg)/身長(m) <sup>2</sup> で求めます。BMI指数の標準値は22.0とされ、統計的にみても一番病気にかかりにくい体型とされ体脂肪率とも相関しています。
循環器	血圧	血圧は、心臓と動脈と血液量の3つのバランス関係から値が出るため、これらのいずれかにでも異常があると変動します。また血圧は常時一定ではなく変動します。病的原因ではなくても、食後、排泄後や、緊張・ストレス・喫煙直後などによっても上昇しますが、いつも高い場合には専門医への受診をおすすめします。
	心電図	心臓の筋肉から発生する電気的変化を記録したもので、心臓の状態を調べます。 主に次のような疾患が判ります。 不整脈 ・ 心肥大 ・ 狭心症 ・ 心筋梗塞等 日頃より次のことに注意しましょう。 ○ ストレス ○ 過労 ○ 睡眠不足 ○ 肥満 ○ 過食 ○ 温度の変化 ○ 脂肪分・塩分の取りすぎ
胸部レントゲン		肺結核・肺がん・気管支炎等の診断と心臓の大きさや形をみて循環器の診断も行います。
胃部レントゲン		胃全体の形・胃壁の不整を診て胃炎・胃潰瘍・胃がん等の診断を目的としています。
CT検査	胸部	肺野全体を細かく断層撮影し、病変の有無を調べます。
	頭部	頭部を短時間で断層撮影し、脳内の病変の有無を調べます。
	腹部	腹部全体を断層撮影し、臓器の細部を画像化することにより早期に病変が発見出来ます。
	内臓脂肪	内臓脂肪と皮下脂肪を測ります。
内視鏡	上部消化管	食道・胃・十二指腸の状況を調べます。潰瘍・ポリープ・がんの早期発見にも有効です。
	下部消化管	大腸、直腸等を内視鏡で直接覗くことで、早期に病変が発見出来ます。
大腸がん(便潜血反応)		腸管内の出血の有無を調べる検査です。大腸がんの早期発見が目的です。
眼底検査		目の奥(眼底)の網膜には、細い血管が枝分かれして走っています。眼底は脳の『窓』と言われるくらい脳の血管と非常によく似た変化をします。そのため血管の状態を検眼鏡でみて、病気の程度や進み具合を調べるものです。主に次のような疾患が判ります。 高血圧 ・ 動脈硬化 ・ 糖尿病 ・ 肝臓病 ・ 白内障 ・ 緑内障
眼圧検査		眼圧とは「目の中の圧力」、つまり「目の硬さ」を言います。眼圧が高すぎると視神経が痛むなどの障害が出てきます。
超音波検査	腹部	超音波は魚群探知機の原理と同じで『音波』を利用して、人体内部の各臓器の断層像を描き、診断するものです。 ** 診断可能な病気 ** 結石・ポリープ・脂肪肝・肝硬変・水腎症・腫瘍・大動脈瘤等
	経膈	** 診断可能な病気 ** 筋腫・膿腫・がん等
	乳房	** 診断可能な病気 ** 乳腺炎・乳がん等
	頸動脈	頸動脈のつまり(血管の狭窄の程度)や動脈硬化の程度を詳しく調べることが出来る検査です。動脈硬化を詳しく調べることによって、脳梗塞の危険性を評価することが出来ます。
喀痰細胞診		喀痰検査は、気管支から出した痰に含まれる細胞や成分を測定して、肺がんが存在する確率を調べる検査です。
マンモグラフィ		レントゲン2方向撮影方法で乳房の所見を調べます。
子宮頸部細胞診		頸部の細胞を採取し、所見の有無を調べます。
骨粗鬆症検査(骨年齢)		足の踝(くるぶし)で骨量を超音波で調べます。

判定用語	A	異常なし
	B	心配なし(異常が見られますが軽度です。心配ありません)
	C	日常生活に注意し、経過を観察して下さい。
	C1、C2	日常生活を改善し、再度検査をお受け下さい。
	D2	病院等へ受診し、詳しい検査をお受け下さい。
	D1	病院等へ受診して、治療の有無を必ず確認しましょう。
E	現在治療中	



機能	項目	検査で考えられる異常
肝機能	総蛋白	慢性肝炎・脱水症等で高値を示し、肝障害・栄養不良等で低値を示します。前日の食事の影響を受けます。
	総ビリルビン	胆汁色素で黄疸(肝・胆疾患)・溶血性疾患の時、高値を示します。食事ではカロテン(かぼちゃ・人参等)の影響を受けます。
	A/G比	A/G比は、アルブミン(A)とグロブリンの総量(G)との比を表わしたもので、肝臓などの異常を知る簡便な方法です。
	アルブミン	アルブミンは、肝臓でつくられ、肝臓そのものに障害があると、血液中のアルブミンが著しく低下し、A/G比も低下します。
	ALP	胆道障害・骨疾患の場合、高値を示します。脂肪分の高い食事を摂った時や妊娠中・骨の成長過程等の場合影響を受けます。
	AST(GOT)	肝疾患・心筋梗塞・肺梗塞等で高値を示します。運動や飲酒でも高くなります。
	ALT(GPT)	飲酒を常習している人は、正常値より10%増しの値でもあまり心配ありません。
	γ-GTP	アルコール性肝炎・薬物性肝炎・胆道障害等の場合、高値を示します。飲酒を常習している人は高値を示します。
肝臓	LDH	肝疾患・心筋梗塞・肺梗塞・筋疾患・悪性腫瘍等で高値を示します。激しい運動後の場合にも上昇します。
	尿ウレリノーゲン	肝疾患・過労・発熱時に陽性となり、急性肝炎・閉塞性黄疸で陰性になります。
肝炎	HBs抗原	陽性を示した時は、現在B型肝炎ウイルス(HBV)に感染していることを示します。
	HBs抗体	陽性を示した時は、B型肝炎ウイルスによる感染の既往があることを示します。
	HCV抗体	C型肝炎ウイルスに感染している可能性が高いことを示します。
糖代謝	血糖	糖尿病を調べる検査で、現在の血糖値がわかります。
	HbA1c	赤血球に糖が結合したもので、過去1~3カ月間の平均血糖値を反映します。
	尿糖	糖尿病の検査で、真性糖尿病(血中の糖が増えすぎておこる)か、腎性糖尿病(腎機能の異常によっておこる)等で陽性となります。
血中脂質	総コレステロール	血液中の脂肪を調べる検査で『動脈硬化』の進行度がわかります。
	中性脂肪	糖質・高カロリー・アルコール摂取・糖尿病・肥満等で高値を示します。
	HDLコレステロール	『動脈硬化』を予防する善玉コレステロールです。偏った食事や喫煙で低下します。
	LDLコレステロール	血管壁にコレステロールを溜め込む性質があるところから、悪玉コレステロールとも呼ばれています。
尿酸	nonHDL-Cho	総コレステロールから善玉のコレステロールであるHDL-Cを引いた残りの脂質です。 (non HDL-C = TC - HDL-C) non HDL-Cは、循環器科疾患の新たな指標として注目されています。
	UA	痛風の原因物質です。アルコール(特にビール)・食事(肉は特にモツ類・魚貝類等のプリン体を多く含む食品)の影響を受けます。
腎機能	尿素窒素	腎機能障害・脱水(長時間の禁食・激しい運動後)で高値を示します。
	クレアチニン	腎機能障害・脱水(長時間の禁食・激しい運動後)で高値を示します。
	尿蛋白	腎疾患で陽性になります。また食後や激しい運動の後・発熱時・月経前でも陽性になりますが、一過性のもので心配ありません。健康人でも一日10~30mg程度は排出されます。
	eGFR	年齢・性別による筋肉量の多寡を考慮し判定した腎機能の評価です。
尿潜血		尿路系のどこかで出血がある場合に陽性になります。健康人でも僅かに出現します。
血液一般	赤血球数	多血症で数値は増加し、貧血症で減少します。
	血色素量	
	ヘマトクリット値	貧血にはつぎのような種類があります。
	MCV	○ 鉄欠乏性貧血 ○ 病気やケガによる出血が原因の貧血
	MCH	○ 悪性貧血(ビタミンB12不足) ○ 再生不良性貧血(造血機能低下)
	MCHC	○ 溶血性貧血(赤血球が次々と壊れる)
	血小板数	骨髓機能の亢進する血液疾患等で増加し、骨髓機能の低下する血液疾患・肝硬変末期等で減少します。
白血球数	感染症等で増加し、血液疾患・薬剤アレルギーで減少又は増加します。入浴や運動後でも上昇します。	
炎症反応	CRP	炎症(慢性関節リウマチ・感染症等)や組織破壊(心筋梗塞・腫瘍等)で上昇します。
膵機能	アミラーゼ	膵臓の分泌液の検査です。膵炎の時は高くなります。
腫瘍マーカー	CEA	特に消化器のがん、大腸や胃、肺がんで高値の傾向を示します。また高齢者や喫煙者でも高値を示す場合があります。
	AFP	肝臓がん、肝硬変で高値の傾向を示します。高脂血症の方では擬陽性の反応がみられることがあります。
	CA19-9	高度増加の場合には、膵臓や胆道のがんで高値を示しますが、卵巣腫瘍等で高値を示す場合もあります。

